

日本：昭和電工の黒鉛電極事業での買収による再編で復活へ

昭和電工株式会社（昭和電工）は独 SGL の黒鉛電極事業の買収を完了した。昭和電工は石油化学や化学薬品、アルミ、ハードディスク（HD）など幅広い事業を手掛けおり、黒鉛電極も主力事業の一つである。9月28日に、独や米国その他の国での競争法により SGL GE の米国事業は、東海カーボン(株)に譲渡することを表明し、当初は、2017年11月上旬に買収を完了することを予定していた。昭和電工は、今回の買収により電炉向け黒鉛電極の世界シェアでトップとなる。

昭和電工は、大町事業所（長野県大町市）、昭和電工カーボン（米国サウスカロライナ州）、四川昭鋼炭素（中国四川省）の3拠点で黒鉛電極を生産しており、SGL GE社は、ドイツのほかスペイン、オーストリア、米国（2拠点）、マレーシアに工場を持ち、年産能力は15万トンであった。今回の買収で、米国事業は東海カーボンに譲渡される。

昭和電工は今後、グローバルでの生産・販売体制を構築し、本社機能の統合やグローバル運営組織導入による固定費削減を進めていくほか、生産地域の最適化による物流・サプライチェーンの実現、原料調達における購買力強化などを推進していくとしている。

昭和電工によれば、今回の買収は規模拡大だけを目的にしたものではなく、再編による徹底的なコスト削減を目指しているとのことである。昭和電工は、高品質の製品生産に長け、SGL GE は、効率性に優れていることから、生産、物流、営業などの最適化を図っていくことで、60億円以上のコスト削減が可能と試算しており、2019年での事業黒字化、2020年度をめどに営業利益100億円を目指している。

（鉄鋼新聞、日刊工業新聞、昭和電工のニュースリリースなど）